日本基督教団　関東教区

関東教区通信

No.159　2020年5月3日

発行者　日本基督教団関東教区
総会議長　福　島　純　雄
事務所　〒330-0844　さいたま市大宮区下町3－39
電　話　048－647－0862
ファックス　048－647－0978
郵便振替　00140－3－67727
Eメール　kantou@air.ocn.ne.jp
URL　http://uccjkanto.holy.jp/index.htm

小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる

ルカによる福音書　12章32節

益子教会牧師　大下（おおしも）　正人

わたしたちは、神様の御前においては、平等であります。ですが自分が置かれている立場を省みる時に、人と比べてしまう自分がいます。卑屈になっている自分がいることに気づくことがあります。しかし神様は私たちに語りかけてくださっているのです。『小さな群れよ、恐れるな』。この言葉に何度励まされたことでしょう。人は、評価を気にするあまり、自分を見失うことがあります。自分ではこう考えて実行したいと思っていても、周囲を気にして思うようにいかないことの方が多いのではないでしょうか？

教会も同じような状況に陥ってしまいます。地域にとって益子教会は、小さな存在です。もしかしたら教会の存在すら知られていないのが現状かもしれません。でも地域に貢献できるような事を考えて始めてみようと思っています。それによって教会の存在を少しでも知ってほしいというのが願いであります。

しかし本末転倒という言葉があるようにあくまでも教会は、神様の福音を伝える場でなければなりませんし、神様との出会いを求める場でなければならないのです。そのためには、まず益子教会のメインである礼拝、祈祷会のプログラムの充実を考えました。土曜日礼拝、日曜日3度の礼拝（主日礼拝、ゴスペル賛美礼拝、夕礼拝）。これは、地域伝道のためだけではなく、私たちのためでもあります。私たちがまず神様と向き合い、礼拝を大切にする気持ちを高めていくことが地域伝道の核になると考えています。

よく言われるのが、宗教色が強いと地域の人があまり来ないのでは？と考える人もおります。しかし今の時代は自分の要望をストレートに求める時代であると考えます。自分の調べたいことを具体的に調べる時代です。ですから餅は餅屋なのです。教会は教会でしかないのです。ゴスペルに興味のある方は、必ず自分の住んでいる所、教会、求めるものを入力して検索します。そしてどんな所か、まず確認してから教会に来ます。

わたしたちは、地域の方が「教会って居心地いいですね」と思ってもらえるような場を提供していきたいです。小さな群れでありますが主が約束してくださった様に恐れず歩んで行きます。そこに主の祝福があるからです。

地区だより

新潟地区

地区長　長倉　　望

2019年度も、昨年に引き続き、地区の連帯をどう再構築していくか、という課題をもって歩む一年でした。

地区のメインの行事として11月17日(日)に、「希望の共同体としての教会」というテーマで「拡大宣教協議会」を開催しました。教会の福音宣教がどのような形で、この時代、新潟の地で、希望を指し示し分かち合うことができるのか、各教会・学校の実践例を通して学びあうために、「再開した教会学校の働きを通して感じ、考えさせられること」、「信仰の先輩から希望を継承していく共同体としての教会」、「教会の役割を担う人たちの世代交代から見えてくるもの」、「敬和に希望を見出す保護者の姿や、敬和学園高校のぞみ寮が大切にしていること」という発題を各教会・学校からしていただきました。この協議会を通して、新潟地区のさまざまなところで、神さまの不思議な業が働かれていることを覚えることができ感謝でした。

2019年度は自然災害の多い年でした。被災支援担当を常設でおく新潟地区ですが、千葉支区に大きな被害をもたらした台風15号、東北教区に大きな被害をもたらした台風19号への被災支援の関わりを持つことができました。いずれの支援についても、長岡教会の玉置千鶴子教師が、中心的な働きを担ってくださいました。

年度末に爆発的感染拡大をみせたコロナウイルス感染症も“被災”と呼べる状況を呈しています。人と人とを分断するのが特徴的であり、未知な部分が多い被災ですが、祈りあい励まし合って歩みたいと願っています。

群馬地区

地区長　川上　　盾(じゅん)

2019年11月23日(土)、群馬地区大会2020が開催された。『共に生きて働く教会 ― カナダ合同教会に学ぶ』講師はロバート・ウィットマー氏（農村伝道神学校校長)。111名が参加、多くの学ぶべき事柄が紹介された。講演内容は以下の通り。

「カナダ合同教会でも信徒の高齢化という課題がある中で、人種・民族・性などの多様性を尊重した様々な取り組みがなされている。①牧師：教職以外に信徒牧師もおり、主任になれるし、聖礼典の執行もできる。聖礼典執行長老のシステムもある。②教団総会：場所を固定せず持ち回りで開催。人口5千人の小さな街で開いたことも。「2年ごと」を「3年ごと」に変更。芝居や歌や踊りが必ず入る。③教団議長：教職だけでなく信徒も選ばれる。女性・先住民族・アジア系・ゲイ・レズビアンの議長も選ばれた。④信仰告白は“The Creed”ではなく、“A Creed”と称するのが特徴。⑤「教区・地区」という地理的なグループ分けから、“Regions”という民族や課題等によるグループ分けのシステムに移行した。⑥地域とのつながりや社会への奉仕を大切にする。先住民族に対する歴史的な罪責について、これまで2回の謝罪を行った。⑦礼拝では子どもからお年寄りまでみんなに役割があることを大切にする。プロジェクター・スクリーンを用いるのは標準。インターネットを用いて、4教会が一緒に礼拝する試みもある。他にコーヒータイム礼拝、ジャズ礼拝など。聖餐式は「キリストの招き」を中心に「信じるから受けられる」ではなく「信じたいから受ける」。⑧スローガンは“Risking Faith, Daring Hope”（大胆な希望を抱き、信仰による冒険をしよう！)」

栃木地区

地区委員長　木村　太郎

2019年度の栃木地区の歩みも一つひとつが守られました。教育部では、「旧約聖書に親しむ」との主題の下での研修会、また、子ども向けのディキャンプが開催されました。青年部においても、「バーベキューフェスタ」や「ビデオ上映会」を開催し交わりを深めることができました。婦人部修養会では、宇都宮上町教会協力牧師の島隆三先生から「私の出会った姉妹たち」とのご講演をいただき、信仰生活における出会いについて思い巡らす時が与えられました。また、今年もアジア学院サンデーが開催され、地区内から12教会・伝道所、

また群馬地区から2教会の参加がありました。

今年のオータムフェスタは、飯塚拓也教区宣教部委員長をお迎えしました。ご講演を通して竜ヶ崎教会での取り組みや、先生の多岐にわたるお働きについて分かち合われ、教会がすべての人と共にどのように歩むべきかについての豊かな学びの時となりました。

昨年度の地区活動で1つ特筆すべきことは、益子伝道について議論を深め、一歩踏み出すことができたことです。今年度から地区が主体となって「益子伝道を推進する会」を新たに立ち上げ、具体的な活動を始めました。定期的に『ましこ便り』を発行する予定です。皆様のお祈りに覚えていただけますと幸いです。

昨年度末において、若林俊郎先生が那須塩原伝道所を辞任されました。新年度から大下正人先生が生活の場を益子に移され、益子教会の専任教師として新たにお仕えになっておられます。また、宇都宮上町教会は新しい牧者と共に歩まれています。

茨城地区

地区長　若月　健悟

2020年1月8日に常陸大宮伝道所の二宮幸雄教師が召天され、13日午前、勝田教会にて鈴木光教師の司式により葬儀が執り行われました。同日午後、日立教会にて茨城地区とGMIM（ミナハサ福音キリスト教会）2教会の新年合同礼拝が献げられ、83名が参席、竜ケ崎教会の飯塚拓也教師が説教を担当されました。日本基督教団とGMIM3教会との宣教協約が具現された最初の礼拝となりました。1月19日午後、勝田教会牧師就任式が福島純雄教区議長の司式により執り行われ、綿引久美子教師が牧師に就任、新たな宣教ビジョンの決意が表明されました。

2月11日地区2・11集会が主題「キリスト者と天皇制」、木村庸五弁護士（日本キリスト改革派湖北台教会会員）の講演により、つくばクリスチャンセンター（TCC）にて35人が参席して開催されました。

3月8日午後、2020年茨城地区総会がTCCにて、登録正議員41名中28名が参席し開催されました。新型コロナウィルス感染拡大が懸念されましたが、教区問安使として木村太郎常任常置委員、飯塚拓也宣教部委員長をお迎えし、在日大韓基督教会つくば東京教会の洪性完教師、GMIM大洗ナザレ教会のペトラ・ラウフ教師、GMIM新大洗ベツレヘム教会のユリコ・ルマンクン教師が参席し、挨拶を受けました。3月末をもって辞任される水海道教会の加藤久幸教師、加藤輝勢子教師（欠席）の挨拶後、地区を代表して日立教会の島田進教師が2教師をはじめ地区の教師方を覚えて祈りを献げました。

新年度は地区大会、2・11集会など皆で励む地区活動を進めたいと願っています。

埼玉地区

礼拝をどう守るか

地区委員長　小林　　眞

世界中が新型コロナウイルスに翻弄されている。埼玉地区内の教会も、いや全世界の教会も、礼拝をどのように守ろうかと苦労している。

国名は忘れたが、若い女性が「ミサ、ミサ」と叫びながら教会に向かって走るが、それを警官が必死に止めていた映像を見た。

このような状況の中で、イスラエルが多大なダメージを受けている。それは、ユダヤ教超正統主義者（黒コートに山高帽）のことである。彼らは、基本的に信じるのは彼らの言う「聖書」のみ。それ以外はどうでもいいこと。従って、現代医学の情報などは無視し、堂々とシナゴグに集まり集会を行っており、その結果、彼らの居住区域では、考えられない感染率になっているという。

翻って、私たちの礼拝への姿勢はどうだろうか。ご承知の通り、多くの教会で礼拝を工夫しながらも守っている。飛沫防止のために、礼拝堂の席の間隔を空けたり、讃美歌を歌うのを止めたり、時間の短縮もそうである。

日本のある教会の信徒が「なぜ礼拝を行うのか？もし教会で感染したら、誰が責任を取ってくれるのか？」と厳しく牧師に問い、その教会では、やむなく礼拝を中止にしたと聞いた。

今の例とイスラエルの超保守の方々とは、同じく「礼拝を守る」姿勢の違いと言えば違いである。

どの教会も、「礼拝を守ってこそ教会」という基本があるが、今回、それらをどのように保つのか、更には、礼拝を中止にした場合、み言葉の養いを何で補うのか…これこそが牧会…が問われるのである。

追　悼・二宮幸雄教師

勝田教会牧師　鈴木　　光

2020年1月8日、年が明けて間もなく、二宮幸雄先生が召されました。勝田教会で30年以上にわたって仕えられ、この日に至るまで新たに開拓した常陸大宮伝道所で伝道の働きを続けてこられました。

長らく病と向き合ってこられたので、いつかはこの日が来ると知っていましたが、やはり急なことだと感じました。

さかのぼること20年、幸雄先生は夢を見たと言います。映画館の客席でたった一人、大きなスクリーンに見える映像を、なぜか手元に持っている小さなテレビモニターに移そうとしてうまくいかず、困って首をひねるという夢です。目が覚めて悟ったことは、神様は大きな御業を計画しているのに自分はそれを自分の枠に収めようとしていたことでした。

以来、より具体的なビジョンを神様に与えられて、めぐみ先生と共に新しい伝道の働きの数々を始められました。

勝田教会で附属保育園と一体の大きな会堂を建築をされたのが30年以上前、そして2008年には常陸大宮伝道所の会堂が建ちました。その名のとおり（二宮）、二つの会堂を建てることができました、と何度も嬉しそうに言っておられました。そして、建物以上に素晴らしいことは、教会の本体である人々をキリストの体として育てあげてこられたことでしょう。私もその言葉と背中で大いに育てていただきました。感謝をもって、またイエス様の前で再会する日を待ちたいと思います。

ご遺族より

常陸大宮伝道所牧師　二宮めぐみ

1月8日の朝、呼びかけに答えない意識不明の状態であったので、救急車を呼び常陸大宮済生会病院に緊急搬送されました。一時持ち直したかのように見えましたが、低血圧が改善されず、自力呼吸もかなわず、心臓も体表ペーシングの刺激を受けて波形を作るだけ、という状況で機械を外し、午後8時21分死亡宣告されました。直後にＣＴスキャン検査をして判明したのは、極度の動脈硬化で心臓がほとんど機能していなかったという事実です。「急性心筋梗塞」との診断でした。糖尿病歴38年、人工透析歴15年、79歳10ヶ月の地上の生涯でした。

体調が思わしくない時には「私はいつまで生きていたらいいんだろう？」と言うので「あなたに地上での使命がある限り、神様は生かしてくださるでしょう」と答えておりました。だからこそ、今回神様は「忠実な僕よ、よくやった」と召してくださったと確信しております。

二宮幸雄牧師は「夢見る人」でありました。

その第一は献身を促された時。ある日、イエス様と弟子達一行の行列があり、道路脇で平伏していたら、行列の最後にいたペトロから「二宮、私の後についてきなさい」と声をかけられたそうです。勝手な父親のせいで、小学校を出てすぐに小僧っ子として働きに出ていた彼は、そこで一念発起、定時制高校を受験して高校生になり、卒業後東京神学大学に入学し修士課程修了と同時に阿佐ヶ谷教会伝道師として教職のスタートに就きました。

第二は2002年。勝田教会の主任牧師となり、つつがなく20余年がすぎていく中で、主から教会ビジョンを示されました。「映画館のスクリーンを前にして、なぜか自分は小さなテレビを持っていて、そのスクリーンの映像を一生懸命にテレビ画面に映そうとして、うまくいかずに苦労する」という夢でした。夢から覚めて、神様の描いているビジョンを小さな自分の手元に映そうという愚かさに気づかされました。ビジョン2222という計画を与えられて、信徒訓練、ゴスペル、賛美礼拝、小グループ活動、教会開拓等、新しい働きを次々と始めることになりました。

第三は、開拓地決定にあたって「北北西に進路をとれ」と示されたこと。勝田教会から26㎞離れた、教会が一つもなかった常陸大宮市に拠点を定めました。二宮という名前の通り、勝田教会と常陸大宮伝道所という二つの宮を献堂することが出来ました。常陸大宮の建物はバリアフリーになっており、ここ10年間身体が不自由になっても、電動車椅子で生活できるようになっていたのは、主なる神様から頂いたプレゼントでした。また召される直前の1月5日の礼拝説教を行い、生涯現役の幸せな牧師でした。

常日頃、「牧師というのは私においては『僕仕』、僕として仕えるということなのだよ」と言ってお

りました。愛読書は「イミタチオ・クリスティ」。キリストにならって生きようとしました。透析のベッドで6時間、身動きできなかったことも「まるでイエス様の磔のようね」と妻からは言われておりました。

常陸大宮の居間に結婚祝いで頂いた聖句額が掲げてあります。「望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい」(口語訳：ローマ人への手紙12章12節)。私たちには復活の希望があります。この先にある、確かな命の希望です。その希望が、患難の多い生活の中で、なお喜びの源であったと思います。

第68総会期第４回常置委員会報告・第３回常任常置委員会報告

教区書記　小池　正造

2月10日に常置委員会が大宮教会において、1月28日、2月25日に常任常置委員会が教区事務所において開催されました。

・宣教部報告は、12月26～27日にかけて、青年の集いを行いました。ナルド懇談会を2020年11月9日（桐生教会）に延期することになりました。ＫＫＳ沖縄キャンプとして3月4～7日の日程で高校生が沖縄研修に出かけます（ただし後日、コロナウイルス対応として中止になりました)。20年度計画として、新任教師オリエンテーション6月15～16日狭山教会、宣教を考える集い7月24日大宮教会、以上の事が報告されました。
・関東教区部落解放推進委員会報告として、全国会議開催によって不足していた会計が、諸献金がささげられ満たされました。更に余剰金が発生する見込みのため、教団部落解放センターに献金をすることになりました。
・つくばクリスチャンセンター運営委員会報告として、異動される加藤久幸委員長の後任として、若月健悟教師が就任することが報告されました。
・教区議長報告（地区総会挨拶）が朗読され、意見交換をした上で、地区総会に配布することが可決されました。
・教師部活動計画について、研修会が10月12～13日に変更されたこと、講師が山口陽一師に決定したことが報告されました。
・2020年度教区教会負担金割賦案が、42,553,000円とし、地区総会に配布することが可決しました。
・2020年度教区予算に関して、各部活動費、委員会費を減額し、承認されました。これを達成するために、交通費規定を作成しました。隠退教師クリスマスプレゼントを減額する事とし、減額分を謝恩日献金としてささげることになります。収入47,388,000円、支出49,065,500円の予算となります。
・2020年度教区教会互助を10教会に支援することを可決しました。また、締切日を過ぎての受付をしないことを確認しました。
・教団部落解放センター活動献金目標額を35万円としました。ご協力をお願いします。
・教区総会仮執行順序を確認しました。教団年金のアピールの時間を持つこと、罪責告白について協議会を持つことを確認しました。
・負担金割賦方式改定案を教区総会議案とすることを可決しました。
・負担金の誤差修正に関する件を教区総会議案とすることを可決しました。
・教区事務所移転感謝献金について献金が未達であった場合、教区事務所維持会計より2020年3月31日付において処理をすることを可決しました。
・北本教会の阿部洋治教師に関する信仰職制委員会答申に関して、教区総会において議案を提出し、可決後、何らかの儀式を行うことを可決しました。
・教区教育費互助基金貸出規定の見直しについて、より活用しやすいように、「貸出上限1年間60万円、総額240万円」を、「貸出上限100万円」に変更します。また、返済について、「卒業後3年以内」を「5年以内とし、在学中は免除する」に変更します。

⑴　教師異動
　埼玉中国語伝道所　辞 林美音（主・宣）
　村上教会　　就 菊地恵美香（代・正）

⑵　23条申請
　菖蒲教会（境内地取得）　取り下げ

⑶　宗教法人規則変更
　原市教会（役員定数）

⑷　受按者
　綿引久美子（勝田教会担任）11月30日
　長橋和彦(日野原記念上尾栄光教会主任)11月30日
　塚本　望（深谷西島教会担任）11月30日
　澤田石秀晴（浦和別所教会主任）11月30日
　木村光寿（飯能教会主任）11月30日

○お知らせ○

第5回常置委員会において、新型コロナウイルスの流行により、第70回関東教区総会を延期する事を判断しました。このことについて、書面で可否を第69回総会議員の皆様にお尋ねいたします。

教区事務所だより

主事　金刺　裕美

2020年度が新型コロナ感染の脅威から始まりました。いつ終息するか分からないこの事態に、教区総会の延期をはじめ諸計画が変更になっています。教区からのお知らせは、必ずお目通しください。

◎書類の提出について

年度報告書の提出期限は、7月末までと変更になりそうです。ただし、その他の書類は、一旦役員会で決定されたところのものを記して提出し、教会総会終了後、変更事項があった場合にはご連絡をいただくようにしたいと思います。お手数をおかけ致しますが、どうぞご協力くださいますようお願い致します。

◎教区総会費用の納入について

教区総会の延期に伴い、すでに、総会費用を納入下さった教会にはご連絡の上、他の科目に振替をしたり、返金をしています。送金と返金で二重に送金手数料が発生してしまいますので、今は納入をお控え下さいますようお願い致します。

◎教会負担金減額と早期納入のお願い

新型コロナ感染防止のために、礼拝ができない・礼拝出席者の減少という状況が多くの教会であります。その影響が教会会計の減収につながってしまっています。この事を重く受け止め、負担金割賦減額案をお送り致しました。各教会・伝道所が共に困難な中に在りますが、どうぞ、祈りを持って計画的な納入をご検討くださいますようお願い致します。

◎送金料軽減にご協力ください。

送金がいろいろあり送金先が分からず、教区に誤送金されることが多々あります。送金手数料も上がっていますので、送金時に再確認をお願い致します。

◎教団年金掛金互助申請について

財政困難な教会の教師・教会の掛金互助があります。希望される教師・教会は必要書類を整え、地区決裁を経て教区事務所に5月末必着で送付してください。

◎教区事務所の執務日・時間について

火曜日～金曜日　　10時から17時

社会保険事務だより

保険事務　金刺　裕美

例年の花粉症に加え、新型コロナウイルス感染予防の為に市中からマスクが消え、全国的な緊急事態宣言が出され人の行き来が制限され、経済的な苦慮など、この先どうなるのかと不安な状態が続いている毎日です。すでに手洗いうがいなど、一人一人が注意していることですが、くれぐれもお体をご自愛ください。

◎保険料率の変更について

2020年3月分から健康保険料率、介護保険料率が変更になっていますが、4月分からは子ども子育て拠出金の料率が変更になります。

0.34%　→　0.36%

夏季賞与は、支給額の内、千円未満を切り捨てた額に、上記料率をかけて算出してください。

◎社会保険報酬額報告書は確定額を。

教会総会が開催できず、報酬額報告書の提出ができないというご連絡が来ています。たとえ、謝儀額に変更があった場合でも、保険料は4.5.6月分は前年度と変わりませんので、新年度の謝儀額が確定次第、至急ご提出ください。ただし、教会総会が7月に入ってしまう場合は必ずご連絡を下さい。算定基礎届ができないと資格喪失となってしまいますので、ご注意下さい。

◎年間自動払込金額一覧表の送付について

報酬報告書を基に、毎月の保険料・賞与保険料等を算出し、各個教会・伝道所ごとに1年間の自動払込金額表を作成しています。6月中旬頃に送付できるよう準備中です。ただし、報酬額報告書の提出が遅れている教会は、送付も遅れるようになってしまいますが、どうぞご了承ください。

◎「自動払込希望科目確認書」未提出の教会・伝道所

期日までに、確認書の提出があった教会・伝道所の4月分は自動払込ができました。確認書未提出の教会・伝道所は、4月分を自教会よりご送金ください。

5月分より自動払込の再開を希望される場合は、急ぎ確認書をご提出下さい。

編 / 集 / 後 / 記

この「関東教区通信」159号のための委員会が開かれたのが3月3日(火)でした。新型コロナウイルス感染症が蔓延する最中で、その週に新潟、埼玉、栃木の各地区の総会延期が相次いで決まりました。任地である伊勢崎教会が属する群馬地区総会は予定通りに3月15日(日)に開かれましたが、開会説教を聖書朗読だけにするなど、時間短縮に腐心した進行でした。主日礼拝もご高齢の方々が出席を自粛するなど、人数が落ち込んでいます。さらに、主日礼拝を教会に集まらず家庭集会に切り替えたり、ライブ配信する教会も増えています。パンデミックの終息を祈るばかりです。　(西谷祐司)

日本基督教団関東教区宣教部委員会

宣教部だより

No.89　2020年5月1日

日本基督教団 関東教区宣教部委員会
委員長　飯塚拓也
301-0843　龍ヶ崎市羽原町1366-5
Tel. 0297（64）3768
http://uccjkanto.holy.jp

新潟中越の教会を訪ねて

疋田　義也（本庄教会）

「種を蒔く人に種を与え、パンを糧としてお与えになる方は、あなたがたに種を与えて、それを増やし、あなたがたの慈しみが結ぶ実を成長させてくださいます。」（コリントの信徒への手紙二 9：10）

関東教区の各教会の課題や取り組みに委員が触れるため、宣教部委員会では委員会の会場教会を、その都度、各地区を巡る仕方で変えています。2月3日には十日町教会で第3回宣教部委員会が行われました。併せて4日には教区副議長・教区書記と共に新潟中越地方の計4教会（十日町教会、小出教会、長岡教会、栃尾教会）を問安しました。見附教会は主任教師の矢吹一夫牧師がご病気の為、問安を控えました。主の支えと癒しをお祈りいたします。

今回、教区から被災援助のあった長岡教会の消雪パイプと、栃尾教会の除雪機についてお話を伺う機会が与えられ、豪雪地域の教会が直面する日々の除雪という現実が示されました。礼拝の場所である会堂を守り、地域と信頼関係を築きながら福音を宣教してゆく為にも積雪対策がライフラインであると痛感しました。

新潟訪問初日は、十日町教会の久保田愛策牧師が半地下の礼拝堂と、その真上の2階から3階に渡って併設された十日町幼児園を案内して下さいました。印象的なのは病気や病後の幼児も預かることができるようにと、看護師の職員も付きながら、免疫が弱っている幼児も感染症から守られるようにと入り口が別途分けられている等の配慮がなされていました。まさに教会が基となって、子どもたちが安心して過ごし、育まれる場所が提供されていました。震災後に建てられた別棟の十日町教会牧師館も外観を見ましたが、屋根からの雪下ろしを必要としない克雪住宅となっていました。

訪問2日目、小出教会の清水明次牧師が清心保育園を案内して下さいました。所在地の魚沼市では0～2歳児も第2子以降が保育料無償で、年々入園希望者が増加し、最初小出教会礼拝堂で行っていた入園式も、収まりきらなくなり止む無く保育園のホールへと変更したそうです。園の隣には稲田が広がっており、季節には田植え体験も行うとのことでした。車で3分程の礼拝堂と牧師館も訪問し、震災と豪雪で被災後、新しい土地で会堂・牧師館が建築された経緯を伺いました。会堂と園が地理的に離れていても、子どもたちのへのお話しや職員の研修を通じて、キリストの愛の真理に基づく保育が、教会と園の連帯で行われていました。

長岡教会では、玉置千鶴子牧師から今年度から運用を始めた消雪パイプ設置の経緯を伺いました。降雪時には、雪が教会屋根から自然と裏地に滑り落ちる造りとの事ですが、その雪が裏地に溜り、ついには近隣民家の窓に迫るほどになったそうです。消雪パイプ設置には融雪に用いる地下水の水脈を掘らなければならず、その際近隣のパイプへの水脈を止めないよう、多くの費用と時間が掛るとのことでしたが、無事に設置に至ったとのことです。次は、老朽化した牧師館の対応について、ミニバザーや会堂献金を捧げつつ祈りを合わせているとのことでした。

栃尾教会では入り口に除雪機が置いてありました。豪雪時には手束信吾牧師が、除雪機をフル稼働させて、数回に分けて半日以上も教会周辺の除雪作業にあたるとのことです。駐車場の雪を会堂の壁側に寄せると雪の壁となり、その量は会堂の縦長のステンドグラスが雪で壊れないよう板で保護しなければならない程で、除雪作業による心身の疲弊は大きなものだそうです。人口が2万人を切る過疎化と豪雪の厳しさの中にあっても、礼拝には子どもも含めた約30名が集い、福音の灯を消すことなく豊かな実りをもたらしていました。

宣教部では「『協同の業』としての宣教」を掲げ、教区全体で宣教の喜びや悩みを共有する歩みを模索しています。今回の問安では中越の5教会が中越地震や数々の豪雪を経験しつつも、教区全体が苦しみを覚え、祈りと支えによって課題を共にしたことの、豊かな実りを見ました。涙と共に種を蒔く人の必要に応え、喜びの歌と共に刈り入れさせて下さる神様に望みを置き、互いに惜しまず喜んで協同の手を差し出す者とならせて頂きたいと思います。

十日町雪掘りキャンプ報告

新潟教会　長倉　　望

多くの人たちのお祈りとお支えの中で、今年も十日町雪掘りキャンプが無事終了しました。今年の参加者は、講師、スタッフ含め、総勢32名。今回初めて参加してくれた人もいれば、「もう一度、雪掘りキャンプに参加したい」という願いをもって参加してくれたリピーターもいます。毎年必ず「来年も参加したい」との思いが与えられる人がいるというのが、このキャンプの不思議な力なのだと思いますが、それはこのキャンプに「いのちに触れる瞬間」があるからなのだと思うのです。今年のキャンプもまた、命と向き合い、命に触れるキャンプとなったと感じています。

ご存知の通り、今年は異常気象と言えるほどの少雪で、十日町にもほとんど雪がありませんでした。栃尾教会を20年牧会された手束先生も、「この季節にこんなに雪がないのは20年で初めてです」とおっしゃるほど。降雪量・積雪量の記録を始めて現在にいたるまで、観測史上101年の中で最も雪が少ないと言われるほどの少雪なのだそうです。幸いにも？雪掘りキャンプの直前2日間にわたって多少雪が降ったために、十日町の景色も、雪国の冬らしい感じになり、またキャンプでも少しだけ雪掘りをすることができて、千葉や京都など、県外から参加したメンバーにも喜んでもらえたようでほっとしましたが、例年、毎日やっていた雪掘り作業も、3時間もすれば何もやることがなくなってしまうという状況の中、今年はプログラムを大きく変更しながらキャンプを実施しました。

その一つが、長野県の小布施町まで遠征し「台風19号による千曲川氾濫によって、土砂を被った河川敷のリンゴ畑の木を救出する」という、実際の被災支援ボランティアをしたことです。十日町教会からは片道2時間。小布施町役場からの紹介でボランティアに行ったのですが、案内されたのは、ニュースなどで頻繁に報道された「新幹線車両基地水没現場」の対岸の河川敷にあるリンゴ畑でした。そこには小布施名物の栗の木もたくさん茂っています。氾濫によって3m近い浸水被害にあった場所とのことで、流れ込んだ土砂は、粘土状に固まり、あたり一面を覆いつくしていました。広大な河川敷の畑が、水害から4か月たった今も、まったく手付かずといっていい状態であることに驚かされましたが、これでも流木などを除去するボランティアが重ねられていった結果だそうです。見渡すと、リンゴの木の下には、たくさんのリンゴがひび割れた地面に落ちており、あたりにはリンゴ酢のような香りがただよっています。リンゴの木が丸ごと水没し、水につかって出荷できなくなったリンゴの実は、つけたままにしておくと、木の栄養がみんなそこに行ってしまって、木に力がなくなるため、冬前にボランティアさんの手をかりて、全部木から落としたのだそうです。丹精込めて育てたリンゴを自ら落とさなければならなかったのは、どれほど切ないことか、思わずにはいられません。そんな中で、私たちに託されたのは、重機などが入れない間隔に植わっている木、一本一本の周りの泥を掘り返して除去する、というワークでした。流れ込んだ土砂が、粘土状の「やわらかいレンガ」のように覆いかぶさっており、この堆積物を取り除かないと木が窒息し枯れてしまうというのです。そこで、木の周りだけでもとにかく掘り起こし木が呼吸できるようにして下さい、とのことでした。

実際に作業に取り掛かってみると、みっちりと目のつまった粘土質の土の重いこと、重いこと。雪掘りの何倍も力が要ります。土を掘り返すほど、ドブのような異臭がただよってきます。さらにそこには流されてきて木の根の周りにひっかかった流木やタイヤ、さまざまなものが埋まっているという状態で、作業は遅々として進まず、半日のワークで、やっと3列ほどの木の根元を掘り散らかしただけ、ともいえる状況でした。圧倒的な現実を前にして、自分たちの力の小ささを痛感させられます。けれども、作業を終えた後、受け入れてくださった島田さんからは、「この光景を眺めて、毎日ため息ばかりついてたけど、少し前向きな気持ちになれました。明日からまた頑張れると思います」との言葉をいただきました。優しいその言葉の背後にある痛みや重荷を思わされましたが、同時にほんの半日でも、わざわざボランティアに来たわたしたちへの思いやりが感じられる言葉でした。

今回は、通常は毎日夜に行われていた被災支援学習の講演を、水曜と木曜にまとめて行ってから金曜日の泥掘りワークに出かけたため、結果として、それぞれの参加者が、さまざまな被災支援に関わってきた講師の言葉を思い起こしつつボランティアワークに取り組むことができたようです。1993年の北海道南西沖地震の奥尻島の状況、阪神淡路大震災での出来事、中越地震、東日本大震災での被災支援の現場での出会いに思

いを巡らしながら、今、この時、2019年の台風19号の被害に携わる、という重層的な時となっていました。

被災の現場では、いつも圧倒的な現実にたたずむしかありません。自分たちの無力さを思い知らされます。けれども「自分たちは微力ではあっても、無力ではない」と自分たちに言い聞かせながら、小さな働きを積み重ねていくとき、とてもつらい現実の中にあっても、そこから、優しさが生まれ、励ましが生まれ、希望のかけらが生まれてくる、ということも、感じてきたのです。それは、「自分は、決して独りではない」と感じることのできる出会いから生れる優しさであり、励ましであり、希望のかけらなのだと思います。

今年で16回（関東教区主催になって6回）を数えたこのキャンプ、今年もまた参加した一人ひとりに、多くの出会いと気づきが与えられた5日間だったと思います。講師を務めて下さった山本先生、柴田先生、寒河江先生ありがとうございました。毎年、慣れないボランティアを快く受け入れて下さる十日町教会や幼児園の方々と久保田先生ご家族、手作りの食事を差し入れしてくださった新潟教会婦人会の皆さんのお支えに感謝します。また、キャンパーを送り出してくださったそれぞれのご家族と、このキャンプを一緒に形作ってくれた参加者・スタッフ一人一人、そして、このキャンプを覚え支えて下さる関東教区のお一人お一人と、何よりすべてを支えて下さった神さまに心から感謝いたします。

「関東教区青年の集い」報告

ディレクター　桐生東部教会　三浦　　啓

2019年12月26日（木）～27日（金）に「関東教区青年の集い」を渋川教会、伊香保温泉を会場に行い、関東教区、東北教区から部分参加も含めて19名の参加者が集いました（茨城地区1名、群馬地区10名、栃木地区2名、新潟地区2名、東北教区4名）。

昨年は、栗生楽泉園の重監房資料館で日本の歴史の中でハンセン病の方々に対する差別があったことや重官房について学びの時を持ちました。今回は、東日本大震災時の遺体安置所の様子を題材にした映画『遺体～明日への十日間～』を皆で鑑賞しました。夜に3グループに分かれ、映画を観た感想や東日本大震災当時の事、自然災害や被災支援について語り合う時を持ちました。映画を観て、感じたこと、考えさせられたことを共有することができました。毎年のように自然災害が起こっていますが、災害に備え、有事には自分のできる範囲で被災支援に携わるようになってほしいと願います。被災支援について話し合ったことで、2月に開催された「十日町雪掘りキャンプ」の案内をすることも出来ました。

また、2日目は望月麻生先生（足利教会）を講師に消しゴムはんこのワークショップを行っていただき、それぞれに素敵な消しゴムはんこを作製することができました。

嬉しかったのは、昨年度に「青年の集い」に参加してくれた高校生が、「青年の集い」をきっかけに今年洗礼を受けたことを自己紹介の場面で知りました。1泊2日という短い時間ですが、高校生にとっては教会につながる同世代と集い、学校とはまた違った交わりの場で共に祈り、讃美し、聖書の言葉に耳を傾け、初めて会った仲間、再会した仲間と交わりの時を持つ中で神様に向き合い、隣人に向き合い、自分に向き合う時を過ごしてもらえていることを知り、これからも青年が集える場をしっかりと提供していきたいと思いました。

これからも関東教区で青年たちが集える場、交わりの場、体験の場、神様に向き合う場をどのように提供できるかを皆さんと考え、青年たちと歩んでいきたいと思います。また、キリスト教学校とも連携できればと思います。たくさんの方々の祈りと支援、神様の守りに心より感謝致します。

新潟地区教会問安記 ①

宣教部委員　西那須野教会／益子教会　大下　正人

宣教部では、様々な場所で問安を兼ねて会議が行われています。今回は新潟の十日町教会を委員会会場として、お借りして委員会を行いました。今年は例年にない雪不足というニュースを聞いていました。それでも新潟に入れば多少の雪があるのではないかと思いましたが、全く雪が無い状況を目の当たりにして、びっくりしました。委員会終了後、十日町教会と幼児園を見学させていただきました。様々な雪対策がなされて設計され、また牧師館も新しくなり、非常に快適だと報告を受けました。その後久保田牧師と教会員の方、教区副議長、教区書記と懇親会の時が与えられ感謝でした。その時に話されたのが、「こんなに雪がない年は、生まれてこのかた初めてです。これからどんなことが起こるのか予想もつかない」とおしゃっていたのが印象的でした。雪によって様々な神様の恩恵を受けていたことを改めて感じました。２日目は、清心保育園、小出教会、長岡教会、栃尾教会を訪問させていただきました。清心保育園と小出教会は、距離が少しありますがこどもたちが頑張って歩きクリスマスなどの行事の時には、礼拝堂を使用しているようで、そのこどもたちが教会につながってくれればという思いを持ちました。次の長岡教会では、教会と隣接する土地が三角になっていたため雪かきが非常に大変だったが、今年度より、雪を融雪する設備を整えた報告を受けました。また、維持管理のために、様々なものを作り、販売していると伺いました。最後に栃尾教会は、急遽お願いして、伺いました。今年度で辞任される話を伺い、後任者の事も伺い、今後も宣教部は覚えて祈っていきます。今回訪問を受け入れてくださった教会に感謝いたします。

新潟地区教会問安記 ②

宣教部委員　土浦教会　栄野　久江

雪の無い今年の新潟。宣教部委員は久保田愛策先生の十日町教会で委員会を持ち、翌日３教会を問安する為小出教会に向かいました。最初に附属清心保育園を見学。雪国の屋内は暖かく床暖房の部屋を子供たちがはだしで飛び跳ねています。次に清水先生の案内で小出教会に向かいました。驚いたことに小出福音ｷﾘｽﾄ教会とお隣同士ですが清水先生は淡々と牧会されているのです。礼拝堂の壁に並ぶ歴代の先生方の写真に、この地で福音を伝え続けている証しを見る思いがしました。

次の長岡教会は通りの角にありました。礼拝堂と牧師館が軒を重ねる程近く、豪雪の写真を見ると建物の間を雪が壁の様に塞いでいます。裏にも屋根からの落雪が積もり、掻きだそうにも先ず通路の雪を取り除かなければなりません。さらに雪国の条例は道路や水路への雪捨てを禁止しています。捨て場の無い雪の悩み解消として期待されるのが消雪パイプです。ソーラーで積雪を感知し地下水を汲み上げ、敷地を巡る直径5㎝程の穴あきホースから散水し雪を溶かすのです。２か所の教会を兼務する玉置先生には雪との戦いはこれに任せ、牧会に専念して戴きたいと心から願いました。

最後に訪問した栃尾教会。手束先生が出迎えて下さいました。木の温もりの礼拝堂正面に十字架を挟んで並ぶ明るい葡萄のステンドグラス。栃尾地区は2006年に長岡市に合併し、地域的には過疎のスピードが速いとの事です。その中で栃尾教会はホームページ情報によると、受洗者が与えられ続け人々の救いの場となっているそうです。この春手束先生を太平洋側にお迎えしますが、これからもこの地の雪明りとなる教会であり続けて欲しいと願わずにはいられませんでした。

今、この状況の中で

委員長　飯塚　拓也

新型コロナウィルス感染によって、私たちの毎日は大きく変わることとなりました。どんなに医療が進歩しても及ばない現実を目の当たりにして、人間には限界のあることを思い知らされます。多くの尊い命が失われ、葬儀のあり方も一変し、喪失感に襲われるご遺族のことを思います。また、今まで体験したことのない大きな不安に襲われている方々も少なくないでしょう。感染の終息のロードマップが描けず、終息にはまだなお時間が必要と言われ、世界はもどかしさに包まれています。

そのような悩みのただなかに、復活の主は立ってくださいます。「あなたがたに平和があるように」（ヨハネ 20：26）と。今こそ、この復活の主のことばを、私たちのいのちの源としましょう。

関東教区では８月末まで諸集会を自粛することとなりました。このため、新任教師オリエンテーションと宣教を考える集いは、残念ながら中止となります。9月 20～21 日の「社会活動協議会」から活動を再開する予定です。